

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071401915
法人名	社会福祉法人グリーンコープ
事業所名	グリーンコープ グループホーム 早良・和(のどか) (ユニット名 1)
所在地	福岡市早良区次郎丸6丁目11-30 2F
自己評価作成日	平成24年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成24年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和(のどか)の理念に基に入居者が今まで生きてきた過程を大切に笑顔で元気に安全に過ごせるような声かけ、ケアを心掛けている。
 家庭的な雰囲気为名前の通り(のどか)に最期まで安心して暮らせる場を提供する。
 安心、安全な身体に優しい食材や環境に優しい洗剤を使用している。
 水分補給、排泄の声かけ、季節・体調に合わせた衣類の更衣の声かけなど、日常の細かなケアに気を配る。紙パンツ、紙おむつは出来るだけ使用しない。
 地域社会との交流による生活の向上。
 日中はほとんどの皆さんがリビングで過ごす。入居者、職員共に笑顔が絶えない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、1階にデイサービス・訪問介護事業所・子育て支援センター・配食センター、2階はグループホーム、3階に有料老人ホームと、福祉の複合施設になっている。2階の玄関を入るとすぐに広く明るい床暖房が入ったりリビングがあり、利用者は日中ほとんどここで過ごしている。利用者の弾くピアノの音色にみんなの歌声が聞こえていてとても和やかな情景であった。管理者や職員の理念に対する意識は高く利用者1人ひとりの立場に立って、日々のケアの取り組みがなされている。職員の年間の内部研修では、認知症への理解・成年後見制度・身体拘束禁止等について知識を深め共有している。また、地域に向けての認知症の勉強会や校区の中学生による職場体験を受け入れ、ホームのイベント時には、近郊の民間ボランティアの協力があり、今年7周年記念行事にも地域の方々の参加をいただいている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を作成し掲示している。職場会議などで共有し実践している。	開設時より職員全員で作成した理念は、ホーム名、和(のどか)に合わせ「(の)んびり楽しくその人らしく」「(ど)どんときにも尊敬の念を持って接します」「(か)家族や地域とのコミュニケーションづくりに努めます」であり、職員会議等で理念についての意識を高め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ出来るだけ参加し交流している。	地域行事(夏祭り、運動会)への参加は、高齢化と共に年々減少しているが、町内清掃や役員決めには、職員が参加している。今年は7周年記念行事や、毎年のホームの納涼会、クリスマス会、避難訓練では町内の回覧板にて知らせて参加を得ている。地域に向けての認知症の勉強会も3月に第2回目を開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域にむけて認知症の学習会を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で利用者の状況など報告、催事参加してもらい利用者で交流し様子をみてもらうこともある。会議内容は職場会議にて報告、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表等の参加を得て、2ヶ月に1回開催している。他施設の有識者の参加もあり職員に向けての助言をもらったり、行事にも参加して利用者の様子を見てもらっている。現在さらに参加対象の地域を広げようと他校区の自治会へ声かけをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている。地域にむけての学習会開催においても相談し協力してもらっている。	主に相談は地域包括支援センターにすることが多く、認知症の勉強会の開催についての協力を得ながら関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修参加、職場会議でのマニュアル読み合わせ等で正しく理解をし身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについて、毎年内部研修があり参加している。玄関や居室のバルコニーへのサッシも開錠している。「ちょっと待って」等が言葉の拘束になるという意識も職員全員が持ち、職員間の連携で利用者の状況に応じた取り組みがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加をし参加できなかった職員には職場会議で伝達研修を行なっている。またマニュアルの読み合わせをし確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用している入居者がいる事を含め今後多くなる傾向にあるため研修参加や職場会議などでも学習し理解を深めている。	現在、成年後見制度を活用している利用者が1名いる。研修参加や職場会議を通じ管理者、職員が制度について理解している。家族からの相談があればパンフレット等も準備し説明できる体制である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約に関する書類を整え、利用者又は家族に読み上げ説明をして、不安や疑問点を尋ね、説明を行い理解、納得を図るよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から意見、要望があれば、管理者から職場会議で職員へ報告し話し合いをしている。運営推進会議や管理者会議でも報告、相談をし運営に反映させている。	家族の面会時や電話連絡時に、ホームの行事予定や様子等伝え、意見や要望がないか確認している。家族アンケートの実施や、苦情箱を設置し、家族からの意見等は職場会議で話し合い改善に向けて取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見、提案を日常的(口頭、連絡ノート)に聞き、職場会議で全職員と話し合う。管理者会議内容を報告し運営に反映させている。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを大切に意見や提案を聞き、レクリエーション等の必要物品の購入についても職員の意見が反映され、その都度解決したり、職員会議で話し合ったりして可能な限り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部が施設より離れているため、代表者は月1回の本部の会議で、管理者からの報告での把握となっている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢等を理由に採用対象から除外していない。採用についてはお互いに職場に適しているか様子を見る為、1ヶ月から3ヶ月の研修期間を設けている。職員が生き生きと勤務できるよう有給、勤務交代も支障のない範囲で配慮している。	グリーンコープ特有の勤務体制がある。募集・採用については性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。採用にあたっては研修期間を設けている。パッチワークの装飾やお菓子作り、家庭菜園等、職員が特技を活かし取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修参加してもらい、参加できなかった職員には職場会議で伝達研修を行い人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	日頃から理念を念頭に、対応の仕方や言葉遣いには気をつけている。気づいたところがあれば職員間でもお互い注意し合いながら、尊敬の念を持ち利用者一人ひとりに合わせた言葉遣いでの対応を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では年間研修計画を立てて勤務以外には参加するようにしている。外部研修については費用、勤務体制の工夫により参加しやすい環境を作っている。職場会議で伝達研修を行ない、全職員で共有している。また昨年より4施設間での研修も始めた。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にむけて認知症の学習会や4施設間での研修で交流、情報収集ができた。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族だけではなく本人とも出来る限りの面会をして、困っていること、不安なこと、要望等を知り理解できるよう顔見知りの関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・申し込み時点より家族の話を丁寧に聞くように心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者には、体験入居(7日間)を勧めている。その間に本人の様子や生活習慣などを全職員で把握しながら必要としている支援を見極め対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族又利用者本人より、人生観・生活感等の話を聞き、学んだり、職員も素直に聞き、泣き笑いを共にし、支え合う関係を築いている。利用者、職員共に感謝の言葉を伝えあっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加の声かけをし共に過ごしてもらう。家族会を開き、家族間の交流を図っている。日常の中でも利用者の変化も報告し、家族に承知してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り支援している。遠方の方々には年賀状やのどか便りを送っている。外部からの面会は自由。リビングや居室で談笑されている。	利用者は84歳～108歳と高齢化しており、なかなか外に出る機会も少なくなっているが、行きつけの美容室へでかけたり、毎年家族や友人に年賀状を出したりして、これまでの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間で利用者の情報を把握共有し利用者同士の関わり合い、支え合いの支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な支援を必要とはされていないが連絡をとったり年賀状や、転居先に面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望・意思の把握に努め、困難な場合は家族、職員間で情報を共有し検討している。	職員は、利用者の思いを把握するために信頼関係を築くよう努めている。表出される言葉で思いを把握するとともに、いつもと違う表情や仕草がないか等、小さなサインも見逃さないように努めている。業務日誌の他、個人毎の記録にも残して職員間で情報を共有している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人や家族、利用事業所からの情報を記録作成し、職員は把握する。入所後の情報は記録と口頭での引き継ぎをしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの一日の生活状況(体調、精神面共)を記録し職員間で口頭で意見交換、引き継ぎをして把握確認につとめている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望・要望を聞き、職場会議にて職員間で意見交換、モニタリングをし介護計画を作成している。	月1回の職員会議時に、職員全員でモニタリングを行っている。利用者の参加は難しいが、家族からも意見をもらい、かかりつけ医とも相談して「その人らしく、ホームで過ごせるように」を念頭に介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々個人記録に記入、読み取りを常に行い、情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの利用者や家族の状況、その時々ニーズに柔軟に対応、支援に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々からのアドバイスや情報により行事参加したり、心身から暮らしを楽しむことができるよう支援に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と家族、事業所の信頼関係を築き、安心して適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ホームの協力医の往診が月2回あり、殆どの利用者がホーム医を希望しているが、身体状況の変化や本人、家族の意向で途中で変更する事も可能であり、実際に変更した利用者もいる。歯科や耳鼻科の検診も、年1回ずつ実施し適切な医療を受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職ともに日常的に情報共有し、相談しながら利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、職員が頻回に病院へ面会に行き、病院関係者との情報交換や相談に努め、家族、かかりつけ医と共に早期退院にむけた話をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、心配停止した場合、看取りについて指針を作成、家族へ説明、同意を得ている。かかりつけ医にも報告している。本人、家族、かかりつけ医、職員共に話し合い、相談しながらチームで取り組んでいきたい。	入居当初より、家族や本人に意向を聞いている。また、「体調急変時の対応」について、利用者ごとにマニュアルを作成している。現在、終末期を迎えた利用者が1名いるが、出来る事を大切にしながら穏やかな生活を送ることができている。家族の付き添い時の寝具貸出や食事提供も柔軟な対応が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習受講、避難訓練、職場会議で急変や事故発生時の対応についてのマニュアルの読み合わせを行い、全ての職員ができるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職場会議でのマニュアル読み合わせや地域の方々へ声をかけをし避難訓練を行なっている。	自治会長や児童民生委員の参加のもと、年2回全体(1, 2, 3階)合同で避難訓練を実施し消防署の指導も受けている。またホームも地域の避難場所の1つとなっている。地震や水害等、火災以外の対策のマニュアル作成も現在検討中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の念をもって接し言葉かけや対応をしている。また気をつけるよう職員間でも気を付けている。	職員は、常に利用者に対して尊敬の気持ちを持ち、日々のケアを行っている。言葉遣いにも気を配り、職員間でも注意し合っている。入浴や排泄の介助時は特に、同性介助やドアをきちんと閉める等、利用者のプライバシーを大切に声をかけやケアを行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを引き出す声かけをしながら希望を聞き自己決定できるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのその日にあったペースを考え大切にしながら体調に合わせて可能な限り希望にそって支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類または、その人らしい衣類を着てもらっている。理美容院は定期的に職員同行で希望の店や近所の店に行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来ること(野菜を切る。お茶碗洗い等)を職員と一緒にしながら食事、片付けをしている。	階下の厨房で作られた料理は、食材にも思い入れが強くあり、料理の味は好評を得ている。日曜日は職員がホームの台所で食事を作り、得意な利用者には食材を切ったり、お茶碗洗いを手伝ってもらっている。職員も一緒に食卓を囲み会話を楽しみながら食事をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日記録し把握している。水分を摂りやすいよう小さいグラスを使用している。すすまない方には声かけ、介助に工夫をして確保できるよう支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や力に応じた口腔ケアの声かけや介助をしている。年1回、検診を行なっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し声かけをしている。紙パンツは出来るだけ外出時のみ使用とし夜間も布パンツにパット使用している。	管理者が「紙パンツをやめよう」と提案した事をきっかけに、職員の賛同を得て、一丸となって排泄の自立に向けて取り組んでいる。まめな誘導や声かけの結果により、今では全ての利用者が日中は布パンツで過ごし、肌の弱い利用者には布のパットで対応する等の工夫もしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、食事に野菜、果物を取り入れ毎日牛乳を飲んでいただいている。また散歩の声かけもしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望や体調、タイミングに合わせて入浴の声かけを心掛けている。入浴中はコミュニケーションを大切にしている。	清潔でゆったりとした個浴の浴室で、脱衣所と浴室は床暖房となっている。原則として週3回の入浴であるが、本人の希望や事情に合わせた柔軟な対応が可能である。洗身が出来る方には、羞恥心にも気を配り、必要な部分の見守りだけを行う等、利用者に合わせた支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息したり、日中の過ごし方や室温に気を配り、入眠剤を使用せず安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの体調、薬について記録、引継ぎにより、その都度情報を共有し服薬時には日付け、名前を読み上げ飲み終わるまで確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かし家事、ピアノ演奏、歌唱、ゲーム、園芸、散歩、スポーツ観戦、コンサートへの外出など支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じたドライブ、散歩など体調をみながら出かけられるように支援している。	日頃の散歩の他、入浴がない日曜日には、油山や周船寺あたりまでドライブに出かけている。季節の花見(桜やバラ、紅葉)に出かけたり、飾り山笠の見物にも出かけている。9月には利用者全員で長崎のグラバー邸に出かけ中華料理を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持管理できる利用者は外出時に買い物等出来るように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや贈り物に礼状を書いてもらうように支援している。年賀状は利用者本人に名前を書いてもらっている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をベランダに植えたり、リビングに活けたりしている。また壁には季節ごとにパッチワークの壁掛けをしている。	居間や各居室、脱衣室は床暖房になっており、それぞれ十分な広さが確保され快適である。壁には、職員が作った季節のキルトが飾られている。ピアノが得意な利用者の伴奏で皆で童謡を歌ったりと楽しく過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2つのテーブル、1つのソファでゲーム、談笑、TVを見たり、音楽を聞いたりと思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室は明るく、ゆったりとした作りになっている。ベッドは備え付けてあるが、布団を敷いて休む事も可能である。どの部屋にも、大きな窓とベランダがついており、プランターの花の水やりを楽しんだり、思い思いに過ごせるようになっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分には手すりを設置、床はバリアフリーで安全に環境整備にも気を付け出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		